



園長便り ひ が し

令和7年6月12日
宮崎ひがし幼稚園
文責園長 花宮 伸利

歯磨き指導



県の歯科医師会に頼んで、学生8名を派遣していただいて歯磨き指導を行いました。

- ① 歯ブラシの正しい使い方、持ち方、保管の仕方 ② 歯によい食べ物、悪い食べ物
- ③ 歯の大切さとむし歯のこわさ ④ 自分の歯への興味づけ ⑤ うがいの仕方

以上のことを中心に紙芝居や歯の模型など子ども達が興味を持てるように工夫しながら指導をしてもらいました。私も60歳を過ぎていますが、いまさらながら子どもの頃にしっかり磨いとけばよかったと思う毎日です。歯を大事にしましょうね。

ヘルプとサポート

「援助」という言葉を辞書で調べると、「ヘルプ」と「サポート」という言葉が並んでいます。**ヘルプ**は「できない」人のために、その人にかわってあげること。幼児期に保護者がするのはヘルプです。一方、**サポート**は、人を「できる」存在ととらえて、そばで見守り、よりよくなるために必要なときには手を貸すこと。**サポート**こそが、まさに親や教師の仕事なのです。

飢えている人がいたら、魚を釣ってあげますか？それとも魚の釣り方を教えますか？これは、人を援助するときのスタンスを比喩的に表した問いかけです。飢えている人は、放っておくと飢え死にしてしまいます。援助者は何か行動を起こさねばなりません。魚を釣ってあげるというのはヘルプです。ちょうど、生まれたばかりの赤ちゃんを世話する行為がこれにあたるでしょう。自分一人では生きられない赤ちゃんは、まさにヘルプを必要とする存在です。もちろん、飢えている人に対して魚を釣ってあげるのは親切で尊い行為です。でも、だからといって、ずっと魚を釣り続けてあげたとしたらどうでしょう。飢える人は、自分の飢えという問題を解決することなく、ヘルプする人に頼って生きることになります。そして、大きくなっても人に頼らなければ生きていけない無力な存在へと育ててしまうのです。

子どもが幼い頃はすべて親のコントロール下にあるので、このヘルプは問題となって現れてきません。でも、年齢が上がると、子どもはどんどん社会に出て行きます。すると、ずっと親の指示で動いてきた子は、指示がないとどう動いてよいのか判断ができません。

また、ほしい物を親が全て察して、求めなくても与えられてきた子は、自分の欲求を正しいやり方で伝えられません。親に全ての問題を解決されてきた子は、問題に立ち向かう勇気を持ちません。ヘルプを子どもの成長に合わせてサポートに変えていくことが幼児期の一番大切なことではないかと思います。さあ、子育てががんばりましょう！